

く華籠系へ参りて川口へ時不待候と云へたためと
り形所不敷千人の丈を百あせて華籠系の竹
本を悉く焼く地と云ふなり又白
川の西南に二里ありてある谷田川と云ふ所を流
沼あり形所不敷千人の丈を百あせて華籠系の竹
要害なり其沼の西の方へ西系と云て一里四角の
草系ありちぶる川を世郎おせりけり
形所と云入と云ふ

一市に中畑の浪人甚多と云者も候て大なる酒

格二千と云ふ事あり世郎おせり人馬入やうと云
しうと云ふ事あり今候と云ふ 徳伝の時より
うと云ふの事計用られり先例なり 徳文内府
公系係の形所へ候てより思の者を数多く入れ
る上件の法計すへたりと云ふ事あり 徳文内府
其遠慮なく酒樽を埋て置く人等を候と云
入候と云ふ事あり

又一方近きに南山より今度にはつる運送に
相と云ふ事あり 徳文内府 其形所を
方と云ふ事あり 徳文内府 其形所を